

## 第81回環境審議会 議事概要

令和7年2月18日（火曜日）14時～15時30分

明石市民会館 第1・2会議室

出席委員：10名

### 【議事1】正副会長選出

○委員改選に伴い、新たに会長、副会長を選出。会長として花田真理子委員、副会長として増原直樹委員を選任した。

### 【議事2】部会について

○専門的な事項を審議するため、自然環境部会、資源循環推進部会、地球温暖化対策推進部会を設置し、各部会委員については、明石市の環境の保全及び創造に関する基本条例施行規則審議会運営要領に基づき、会長より指名を行った。

### 【議事3】報告事項

① ごみ減量に関する市民アンケート結果および指定ごみ袋の導入について

●事務局より説明（資料3、参考資料1～3）

<主な質疑>

（委員I）今回、明石市で導入する「単純指定ごみ袋」について説明してほしい。

（事務局）指定ごみ袋の制度には、ごみ処理費用を上乗せしない「単純指定ごみ袋」と上乗せする「有料指定袋」いわゆる有料化がある。今回、明石市で検討しているのは、「単純指定ごみ袋」の方であり、ごみ袋の価格は市場価格となるので、現在の既製品の袋と変わらない価格帯となる。

（委員C）ごみ袋が透明で中身がはっきり見えるのはいいことだとは思いますが、人によっては、中身に対するプライバシーを気にされる方もおられると思う。例えば、小さい袋で料金を倍ぐらいにして、これはプライバシーを保てる袋ですよということも考えてもらえたらどうか。

（事務局）今回指定する燃やせるごみの袋については、現段階では透明でなくて、プライバシーを配慮して半透明を検討している。資源ごみや燃やせないごみは、袋は透明の指定であるが、そちらの方はほぼプライバシーがほぼないものと考えられることと、包丁などが燃やせないごみに入っている場合もあり、収集の安全面からやはり透明で考えている。

（委員C）単純指定ごみ袋の価格が気になる方もたくさんおられると思う。神戸市の場合でも、10円ということで、市場価格から2円ぐらい高いのではないかという意見もある。ですので、できるだけ市場価格を踏襲してほしいということと、それより高くするのであれば、その費用は、例えば、市の環境対策費として上乗せしていますよということであれば、納得するのではないかと思うので、価格設定の点も考慮してもらえればと思う。

（事務局）袋代については、袋の厚みや大きさによって変わってくる。おそらく8円ぐらいのものは、厚

みが 0.01mm などの薄くやぶれやすい袋であると考えられる。神戸市で指定されているのが 0.02mm 以上ということなので、そのような安い薄い袋に比べたら多分高くなるという形だと思う。そのあたりも、おそらく説明が必要かと思うので、市民説明会の際に説明できればと思う。

(委員 I) アンケートの中で、大きさについて何種類か欲しいという意見は、本当にその通りだと思う。あまりごみが出ないのに大きな袋というのも、もったいない話になる。また、神戸市の話もあったが、ごみ袋の原料も確か考えていたと記憶している。この際に、少しそういうことも考えて、環境にさらによい袋に転換するということもお伝えしたらいいのではないかと思う。また、この機会に合わせて、今非常に問題になっているリチウム電池の事故なども含めて、ごみの出し方の啓発もあわせて実施してもらえると、制度を変える意味がまた加わるのではと思う。

(委員 D) 明石市の分別状況を教えてほしい。燃やせるごみはどの範囲か。神戸市では、プラスチックと、本当に燃やせる可燃ごみを分けている。

(事務局) 明石市は、プラスチックごみについては、燃やせるごみに入っており、プラスチックの分別はしていない。新ごみ処理施設では、プラスチック分別に対応した施設となる予定であり、施設稼働のタイミングに合わせて、容器包装、製品プラスチックも含めて、プラスチックの分別を検討していきたいと考えている。

(委員 H) 今回は、燃やせるごみだけを指定袋というお話だったと思うが、リサイクルできる資源ごみ・燃やせないごみは透明で指定はないとのこと。燃やせないごみについて同じく指定をするというのも、意識が少し違うような気がするので、一案かなと思う。

(事務局) 神戸市では、4 種類すべて指定ごみ袋ということもあり、指定ごみ袋をどれだけの範囲とするかというところは検討したが、燃やせないごみは販売数が少なくなることが想定されるので、大手店舗では、取り扱いしてもらえるかと思うが、小さい小売店などでは取り扱わないところも出てきたりすることも考えられる。そのため、利便性も考えて、燃やせるごみのみとした。ただ、安全性を考えて、透明の指定はさせてもらいたいと考えている。

(委員 B) 神戸市はかなり厳しく分別しているが、明石市は緩い。厳しさというのも必要で、それによって意識を高めるということも大事かと思う。ごみの問題は、これから地球的な問題にもなってくると思うので、もっと厳しくして、明石は厳しいなという意識を植え付けることの方が、ただ生活がしやすいということよりも、考えなくてはいけないこと。何年か後に分別ができるようになるということだが、今も普通のごみの中に、ペットボトルがいっぱい入っている。そういう状況なので、今からでも、事前の準備として、早めに分別の練習をした方がいいのではないかと思う。

(事務局) 今回、指定ごみ袋を導入するにあたり、市民説明会を開催していこうと考えているので、その中で、新たに導入する指定袋を一つのツールとして、分別してくださいという形で、啓発を頑張っていきたいと思う。

(委員 C) 一方で、厳しくすればするほど、不法投棄が増えるのではないかという意見もあるかと思う。

進め方は必ず慎重に、少しずつ厳しくしていくとか、教育をしっかりしながら進めていくというような形をとってもらえればと思う。

(委員 J) アンケートやワークショップについて、明石市では、外から入ってくる子育て世帯を含め、人口が増え続けているという特徴があると思うので、人口比率に対してその 20 代 30 代が十分にアンケート或いはワークショップに参加されているのかという点が少し気になる。不十分というわけではないが、もし余裕があれば、例えば子育て世帯の方を対象に、普段のごみの出し方とか、ごみで苦勞している点など、少し丁寧に話を聞く、専門的にはフォーカスグループインタビューというが、検討されてもいいのではないかな。

(委員 J) 指定袋の名称について、例えば、亀岡市では、「燃やすしかないごみ」というような呼び方をしている。それだけでも数パーセントのごみ減量の効果、意識が変わるという点は注目に値する。それぞれの袋に、ちょっとポジティブな名前をつけるなど、いろんな工夫はあり得るかと思うので、中長期的に検討していただけるとよいと思う。

(委員 J) 袋のデザインについて、コンテストやアンケートで、機運を盛り上げていくのは 1 つの手法だと思う。その中で、市民がきちんと取り組むことで、最終的にコストつまり税金が安くなる、税金の負担が増えないというところを、強く認識する必要があると思うので、例えば袋に、これを処理するのに、幾らかかるという情報を印字して、コスト意識、ごみ処理がタダではないことを市民の間で共有するというのも、この機会に検討されるといいかなと思う。

(委員 J) 指定袋導入の期待される効果について、事業系ごみの家庭ごみへの混入が抑制されるという点があるが、この理由が少し理解しづらい。

(事務局) 今は、事業系のごみ袋も、家庭系のごみ袋も同じなので、例えば、店先でごみを見たとしても、同じような内容なので、事業系か家庭系かわかりづらいが、家庭系に指定ごみ袋が入ることで、事業者の店舗の見えるところで、家庭系のごみ袋が使わなくなると思う。また、意識の問題で、例えば、料理屋さんなどで、家庭のごみ袋に捨てることに対して心理的な抵抗が出てくるかと思うので、期待される効果として挙げている。

(委員 A) ごみ出しを自分もやるが、あまり値段など考えずに、毎回ごみの日に、全部ごみをまとめて 1 つの袋にして出すということを習慣でやっていて、それが何か指定のごみ袋になり、変わっていくのかということは、まだ自分の中で実感を持たない。

(委員 I) それが本当に一般的な感覚かと思う。ごみが幾らで処理されているのかということにはなかなか思いがいかなくて、せっかく税金払って処理してもらっているのに、何で自分が払わないとけないのかという疑問を持たれる方もおられる。それで、先ほどごみ袋のデザインのところで、処理するのに幾らかかるという情報を入れるのは、それを意識していただくよい機会になる。そうすると、ごみを減らすことが、めぐりめぐって自分たち市民のためになるということがわかってもらえるのではないかな。

(委員 E) 指定ごみ袋は、私も賛成でどんどん進めていっていただければと思う。ただ、今燃えるごみもプラごみも一緒になっている、また、なかなか減量が難しい生ごみも一緒になっている。新しいごみ処

理施設ができてから、分別をしていくという話があったが、5年先ぐらいの話かと思う。その時点で急に分別しましょうということは難しいと思うので、うまくソフトランディングできるような形で、プラの資源回収やら生ごみのたい肥化なども並行してぜひ進めてもらいたいと思う。要するに、周りの状況も見ながら、5年後には速やかに分別ができるような体制づくりも必要ではないかという提案。

(事務局) プラスチックについては、急な分別というのは、なかなか難しいと考えている。それで、現在の分別区分の中で何ができるかというところで、市民の方により意識をしていただくために、昨年からはボトル to ボトルの取組(使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生する取組)をアサヒ飲料とコカ・コーラと連携して始めている。最近では、アサヒ飲料が市内の自販機に明石市とペットボトルリサイクルの取組をしていますというステッカーを貼るなど、啓発もしているところ。またプラスチックについて、すぐにできる取組という点では、大きなごみの減量に繋がるものではないが、まずはプラスチックを分ける取組の一つとして、今年度(昨年)の年末から、市内企業のライオンと協働して、歯ブラシの回収・リサイクルに取り組んでいる。そのような小さなところから少し意識をしていただくことから始めたいと考えている。

(委員 F) 1人あたりのごみの量について見てみると、人口が増えている中でも、燃やせるごみについては2019年からずっと減っているのも、おそらく1人あたりで換算すると減少傾向になると思う。市民の方が決してちゃんと取り組んでいなかったわけではなく、ある程度の政策評価もできると思う。今回、指定袋を入れるということで、またさらに次のステージを目指すんだというようなメッセージを出さないと、今まですでに効果が出ているのに、というようなロジックでもしかしたら言われる方もおられるのではないかなと思う。

(委員 F) ペットボトルの件で、今ペットボトルの資源価格が非常に高騰しており、明石市でも事業者と協働することで、売却益も得られるかなと思う。現在は、缶・瓶・ペットの3種混合の回収をされている様子だが、どのような回収方法かにもよるが、瓶が割れてしまうと、どうしてもペットボトルの品質が落ちてしまう。それで、もし今後、指定袋を導入して、分別の強度を少し上げていきますよというメッセージをするのであれば、よければ、指定袋で1つだけペットボトルを作るなども考えられてもいいのかなと、良いタイミングではないかなと思う。

(事務局) 資源ごみは、お見込みのとおり混合回収をしている。分けるとその分の回収コストが上がるので、費用対効果はどうかという点がある。また、収集部門とも相談にはなるので、すぐには難しいかなと思うが、ご意見について情報共有させていただきたいと思う。

② 新ごみ処理施設整備に向けた取組について

●事務局より説明（資料4、別紙1，2）

<主な質疑>

（委員 G）DB0 方式について説明をお願いします。

（事務局）D はデザイン・設計。B がビルド・建設。O がオペレート・運営、維持管理。それらをまとめて発注するという方式。これまでは、設計と建設だけを発注し、運営は個別に発注している方式であったが、今回はまとめて発注することで、運営を考慮した設計、建設ができる点で無駄のない設計が可能となり、コスト低減にもつながることが期待される。また、個別に発注する方式では、やはり建設した事業者が有利となるので、そういう点でも、今回まとめて発注することで、維持管理の分野でも、競争性が働くという優位性があると考えている。

（委員 C）DB0 方式はとてもいい方式だと思うが、受注後、内容を変更したいときに、どうしても変更できない項目があるということが結構出てくる。その時に、例えば、受注業者と役所の両方にメリットがある提案であれば変更できるという項目を作ってもらえれば、業者側にもいろいろメリットがあると思う。そのあたりについても、検討しなければいけないと思っている。

（事務局）DB0 という方式は、市から基本設計のレベルを示したうえで、事業者の提案を受けるというものになっているので、基本的には事業者提案によって進めていくというもの。ただ、ご指摘のとおり、市として譲れない点というのが基本設計には入っているので、ベースになる部分は、協議しながら進めていく部分もあるが、事業者から提案いただくものは、受け入れていくというのは、基本的なスタンスになると思う。

（委員 C）ストーカ式というのは一般的な方式だと思うが、メリット、デメリットがあると思う。その他の方式として、ガス化溶融方式などもあると思うが、ストーカ式を選ばれたのはコストだけなのか、それとも、大きなメリットがあるのか、教えてほしい。

（事務局）全国的にもストーカ式が 80% 近く採用されている。ストーカ式は、事業費も安くなることに加え、災害時のごみも含めて、処理がしやすいという利点もある。災害時には、大きいごみも入ってくるし、通常入ってこないようなごみも入っている。そういう処理がしやすい部分でも、ストーカ式は優れているということで採用したという経緯がある。

（委員 I）溶融式は灰も出ないので、その点では優れているが、費用が高いということで、溶融式からストーカ式に変更している自治体もあると聞いている。

（委員 C）最終処分は、現在どのようにされていて、今後どのように考えられているのか。

（事務局）最終処分は、現在、市の最終処分場と大阪湾のフェニックス事業において処分している。今後も、市の最終処分場は大事に使いながら、フェニックスも運用しながら、併用して最終処分をしていこうと考えている。

以 上